

購読の申し込みは
日本医労連へ
購読料 年間1,500円(送料込)
(組合員の購読料は組合費に含む)
送金口座 中央労金荒川支店(普通預金)1123296
郵便振替00160-6-84866
ホームページ <http://www.irouren.or.jp/>
電子メール n-ask@irouren.or.jp

医療労働者

医療・介護・福祉労働者の生活と権利、国民の命と健康を守る

第1797号 2023年2月23日
編集・発行
日本医療労働組合連合会
〒110-0013 東京都台東区入谷1-9-5
日本医療労働会館3階 TEL03(3875)5871
発行 毎月2・4木曜日
(昭和36年9月15日)
(第三種郵便物認可)

23春 組織拡大交流集会

仲間ふやして要求前進させよう



「新人加入100%」 に向けて意思統一

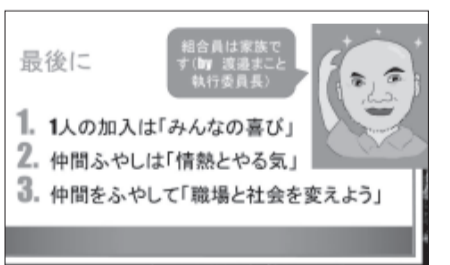
2月11日に開催した、23春の組織拡大交流集会に、4全国組合26県医労連から約70人が参加し、春の新歓成功に向けて意思統一を行いました。

交流集会では、春の新人加入100%に向けて、医労連共済・ろうきんの制度やメリットを学んだほか、愛知県医労連の新歓の取り組みの実践から学ぶために、愛知県医労連の矢野彩子書記長の特別報告で学習しました。その上で実践を身につけるために、グループワークで研修を行いました。

産別のスケールメリットを最大限いかそう

基調報告では、米沢哲書記長(組織共闘局長)が、4年連続の減勢から増勢に切り返すために、「仲間が増えないと要求は実現していかない」としたうえで、「増勢には新人加入100%の取り組みが重要だ」と強調しました。また、事前の準備のため「仲

間を増やすにはBookの活用も呼びかけました。さらに、「みんな医労連の仲間」という自覚と自信をもって、県医労連全体で支援しあうところこそ産別のスケールメリットだ」とし、年間を通じた粘り強い新人加入100%の追求も呼びかけました。



愛知のパワポ資料の1枚

グループワークでは、少人数に分かれ、参加者自身が先輩役、新人役、講師役に分かれシミュレーションを行いました。新人役からの予期せぬ質問にタジタジするなど、それぞれのグループで楽しみながらも真剣に取り組まれました。

参加者からは、「シミュレーションでできてよかった。繰り返し繰り返し準備していきたい」

愛知県医労連の新人加入100%の実践学書記長は、「めざせ新人100%」と題し、新歓の意義・取り組みを、「呪いの言葉」「新人が安心する魔法のことば」

など、具体的なポイントを盛り込んで話されました。続いて、近藤直己執行委員が「5分間立ち説明会」の手順とポイントを実演を交えて説明を行いました。(写真右)

※愛知県医労連の講演の様子は、YouTube配信予定です(期間限定)。詳細は組織拡大月間の中で、お知らせいたします。

23春闘 大幅賃上げ求め 粘り強い交渉を

23春闘は、異常な物価高と円安が国民生活を直撃するなかでむかえる春闘です。

暮らしや人手不足の解消のためにも、ベースアップによる大幅賃上げが不可欠です。大幅賃上げの実現にむけて、粘り強く交渉しましょう。

ストライキを含む全国統一行動日の3月9日には、12時〜と18時〜の2回、Twitterデモに取り組みます。

スト集会や行動の様子を以下の#(ハッシュタグ)をつけてTwitterで発信・リツイートしてください。

#笑顔の看護・介護がしたい
#だから大幅賃上げ

Twitterデモ
3月9日(木)
①12時00分スタート
②18時00分スタート

#笑顔の看護・介護がしたい
#だから大幅賃上げ

3・8 回答指定日 3・9 全国統一行動日

脈路

今年は卯年。兔がジャンプするように、飛躍や成長などポジティブな年とも言われていきます。物価高騰で

生活が苦しくなる労働者への大幅賃上げは待たなし。私たち労働組合の出番であり、躍進する春闘にしていきたい。前回の卯年は東日本大震災・原発事故が発生した年です。未だ故郷に戻れない方々がいるにも関わらず、支援打ち切りや原発帰還をすすめる政府に怒りを感じます。その他にも、国民監視強化のマイナカード問題、高齢者イジメの年金引き下げや医療費負担増など、国民に痛みを押し付ける事ばかりが目立ちます。また、岸田政権は防衛費増額計画として病院が確保する積立金を奪い取ろうと画策しています。命を守るための財源が、命を脅かす軍事費として使われることがあってはなりません。コロナ禍で3年以上も奮闘するケア労働者への更なる財政支援と制度拡充こそ、今必要な政治課題です。四月には一斉地方選挙があり、新しい政治へと転換させることが求められています。海外では看護師たちがストライキを決定し、賃上げや人員増を次々と勝ち取っています。要求実現する共通点は、多くの労働者が一斉に行動し、声を挙げていることです。医労連も、全国で結集する仲間たちと一緒に行動を起こし、全ての組織が要求実現できる歴史的な春闘にしていきたい。

労働組合を大きくして ケアの声を届けよう



2月13日にオンライン併用で開催された22年度春・看護要求実現全国交流会には、5全国組合31県医労連から、集団視聴含め151人が参加しました。参加者らは組合活動を通じたケアの実践、署名の力・取り組み方法等を学び、今後の運動発展にむけて意思統一しました。

日本医労連看護対策委員会
は、2月13日、医療労働会館をメイン会場にして、22年度春・看護要求実現全国交流会をオンライン併用で開催しました。

開会にあたり、佐々木悦子中央執行委員長がいさづつを行いました。佐々木委員長は長引くコロナ禍で奮闘している組合員を激励するとともに、コロナの5類引き下げ決定や国立病院の問題などを例にあげながら、国の無責任な対応や方針を批判しました。それと同時に、現状を変える

には多くの声を上げることが必要だとし、署名も含めた様々な行動に結集し、より良い看護を実現しようと述べました。

元気がでる記念講演

記念講演では、岡山県労働者学習協会事務局長の長久啓太氏が、「労働組合のパワーで、看護と尊厳を取り戻そう」と題して、川嶋みどり氏やナイチンゲールの著書も紹介しながら講演しました。長久さんは「看護師である前に『労働者』である私たちは、生活するために自分の労働力を時間で決めて、使用者に販売しています。労働力を再生産させるためには人間らしい生活が不可欠です。そして労働力を乱暴に扱う『資本』から労働者の命と生活を守るために労働法や労働組合があります」と解説しました。つづけて「しかし組合の日常活動はみな初心者です。労働組合を力強くするために、会議のなかでも対話や交渉の仕方など、練習する時間を設けましょう」と提起しました。そして「ケア」気にする、心配、世話する」であり、仲間と共に良く生きるための労働組合活動も、広い意味で看護でありケアの実践です。労働組合の力を大きくして、職場・地域・社会・政治にケアの言葉を届けましょう」と呼びかけました。



海外の看護師ストライキに勇気もらおう
其調報告では、松田加寿美中央執行委員(看護対策委員会事務局長)が海外での看護師の力強いストライキとその成果を紹介。夜勤実態調査や退勤時間調査の結果を報告し、「看護師の置かれている状況は日本も世界も同様。私たちも大幅増員・夜勤改善、大幅賃上げの実現に向けて頑張らしよう」と訴えました。



岩手県医労連青年部街頭署名行動 (2021年11月)

実践に学ぶ署名推進
特別報告では、鈴木寿子中央執行委員から岩手県医療局労働組合の署名推進の取り組み報告がありました。鈴木中執は、コロナ禍で街

頭署名が難しいときは、「署名チャレンジャー」の取り組みや退勤時間調査と同時開催など、組織内で集める工夫をできたと報告。青年部では署名のオンライン学習会を開催、街頭署名にも挑戦したことを紹介し、コロナ禍でも活動を工夫し、継続させることが大切と述べました。参加者からは「取り組みを参考にしたい」などの感想が寄せられていました。

最後は田中直光中央副執行委員長が、大幅賃上げを勝ち取る春闘であり、回答なければスト決行で臨もうと述べ、春闘に向け意思統一をしました。

盟単組代表者が集い共同意思決定し、部会の方針を發揮していきましよう」と述べました。

大きなカベとなつて 大きな波に立ち向かおう 精神部会単組代表者会議

2月12日、日本医労連精神部会は単組代表者会議をオンラインで開催。13県医労連から34人が参加し、部会の運動方針や、23春闘に向けて意思統一をしました。



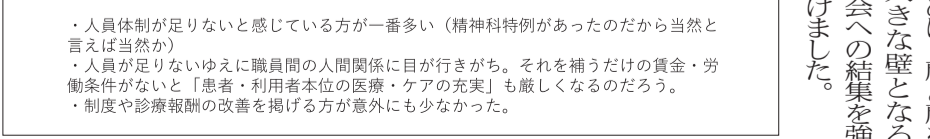
佐々木和敏部会長は冒頭、会議の意義について「患者と医療者の共同意思決定がリカバリーにつながるように、精神部会の運動も運営委員だけでなく、加



続いて精神医療分野に絞った情勢解説と運動提起が、佐々木部会長からありました。精神医療分野は、様々な特有の問題を抱えています。部会としては、「精神医療の改善と、雇用・労働条件の維持・改善はセットで運動を進める」とし、具体的な運動計画と新署名の取り組みを訴えました。

中間報告

22年7月〜12月末まで取り組んだ「精神科病院で働く人のアンケート(1月〜10月筆)」の中間報告を、澤口勇副部会長が行いました。結果からは働きがいを感じつつも、良質な医療の提供や働きがいのある仕事にするには、人員体制の充実や賃金・労働条件改善が必要だと感じていることがわかりました。



現場のリアルな実態を

東幸枝副部会長は先日行った厚労省要請を報告しました。今回は、①地域医療の質の向上を図るための精神科病棟人員配置基準や診療報酬の拡充、②患者の権利擁護・精神疾患に対する啓発促進を要請しました。要請を終えた感想として、「毎回、厚労省

があまりにも現場の実態を理解していないことに驚きを感じません。要請のたび現場のリアルな実態を伝えていくことの大切さを痛感しています」とし、引き続き粘り強く要請を行っていくと決意を述べていました。

後半は3つの分散会にわかれて、春闘準備や各単組・支部での活動状況を話し、経験を共有しました。参加者は、それぞれの実情が知れたことが収穫、もう少しみんなと話したかった、などの感想を寄せていました。まとめでは、澤口副部会長が「大きな波に立ち向かうために、肩と肩を組んで大きな壁となろう」と部会への結束を強く呼びかけました。

分散会で交流

具体的運動
・単組代表者会議：加盟単組が集結し、情報と運動の共有と一致、運動の共同決定
・全国交流会：学習・情報・交流・意欲創設
・精神保健医療福祉の改善を求める国会議員署名：精神医療・働き方の改善
・厚労省要請行動：精神医療と労働条件等の改善
・アンケート調査：意見・傾向の把握、課題の発見、運動方針の策定、問題提起
・団体間との交流と協賛：運動の共有と拡大

・人員体制が足りないと感じている方が一番多い(精神科特例があったのだから当然と言えば当然か)
・人員が足りないゆえに職員間の人間関係に目が行きがち。それを補うだけの賃金・労働条件がないと「患者・利用者本位の医療・ケアの充実」も厳しくなるだろう。
・制度や診療報酬の改善を掲げる方が意外にも少なかった。

2交替夜勤8割超 16時間夜勤約7割

10年間改善せず!!

2022年「介護施設夜勤実態調査」記者発表

2月16日、厚生労働記者会において、「2022年介護施設の夜勤実態調査」の記者発表を行い、9報道機関が取材に訪れました。

記者発表では、佐々木悦子中央執行委員長が、調査の目的は、介護施設の夜間業務の改善をはかるためと説明しました。そのうえで「12時間以上の長時間2交替夜勤や一人夜勤では職員の健康も利用者の安全も守れない」と訴えました。また、2025年には介護職員が22万人不足すると推

計されていることをあげ「必要人数の確保、働き続けられる賃金とともに労働環境の改善は急務です」として、実態の報道を呼びかけました。続いて寺田雄介介護対策委員会事務局長が、「10年間継続して調査に取り組んでいます。夜勤形態、回数、体制はほとんど改善せず厳しい状況



がが続いています。介護労働者が長く働ける環境構築のために、調査結果を通じて問題解決をどうすすめるかが大きな課題です」と前置きし調査結果を報告しました。



現場の実態は

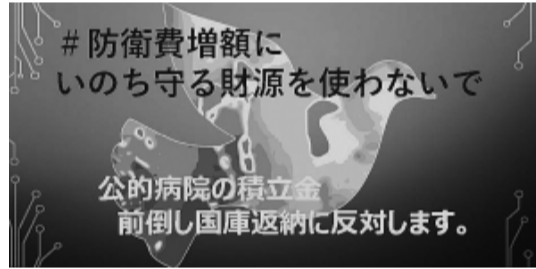
2022年介護施設夜勤実態調査は149施設、210職場から回答を得ました。そのうち本調査対象の事業所からの回答は135施設ありました。夜勤形態では2交替夜勤を行っている事業所は135施設のうち118施設と87・4%になっており、そのうちの93施設が16時間以上の夜勤を行っていることがわかりました。

記者発表には、久保達太郎さん(写真左・日本医労連介護対策委員)、福和門さん(写真右・介護福祉士)が同席しました。特別養護老人ホームで働く福さんは、平時からの夜勤体制の少なさ、緊急時の対応、2

交替職場でコロナクラスターが起きたときは、夜勤明けの職員がその日の夕方に再度夜勤に入った。さらにシフト数も多く生活リズムが崩れ、睡眠の質も低下などの職場の実態を報告しました。久保さんは、グループホームの一人夜勤では、起きている利用者もいるため、転倒事故等があるため少しの物音にも敏感になる。施設内の清掃や消毒に加え、ごみ出し時は職員が無人になってしまったため早朝に大急ぎで往復する。しっかりとした休憩は取れないなど、どちらも現場の過酷さから介護職場の改善を訴えました。

※詳細は医療労働3月号、日本医労連ホームページの「各種調査結果」をご覧ください。

公的病院の積立金前倒し国庫返納に 反対するオンライン署名スタート



岸田政権は、国立病院機構(以下：NHO)の積立金422億円と、地域医療機能推進機構(以下：JCHO)の積立金324億円を「不用見込みの財源」として、国庫に前倒しで返納させ、「防衛費増額」のための財源に転用させようとしています。この財源は、国民のいのちを守るための財源(感染症法等改正をふまえたハード面の改修や老朽化した病院の立て替えなど)であり、コロナ禍

- ＜要請項目＞
 - 1、感染症対策の最前線医療を守るため、「防衛費増額」を理由とした『公的病院積立金の国庫返納』は撤回してください。

詳細は、発151号(再送)を「参照下さい。」
オンライン署名はこちらから↓



平和とは 日々の生活を守ること

第17回憲法・平和学習交流集会



参加者で元気に団結ガンバロウ

2月12日、第17回憲法・平和学習交流集会(WEBC)を開催。3全国組合15県医労連38人の参加がありました。参加者からの反響の大きかった4つの特別報告をご紹介します。

身近に戦争があった

中国地方協の『地元DTP平和ツアー』は、コロナ禍で沖縄平和ツアーが中止になる中、「戦争は特別な場所ではない。自分の住んでいる場所にも足跡がある」と青年を中心に相談しました。Web環境などは県医労連に全面支援をもらいながら、「まずやってみよう」と

きたわけではない。自分の住んでいる場所にも足跡がある」と青年を中心に相談しました。Web環境などは県医労連に全面支援をもらいながら、「まずやってみよう」と被爆者や空襲の体験者からの聞き取り活動にとりくみ、中国地方協全5県での実施となりました。茨城県厚生連労組の「ピーススタンプラリー」は、「コロナ禍でも個人や少人数でも参加

一致した要求で共闘

沖縄県医労連の「オール沖縄」の報告では、辺野古基地建設反対の一点で共闘した「オール沖縄」がつくられた歴史を振り返りました。琉球処分の際、米の土地の強制収用のたまたか源流に「要求に一致してたたかった結果、プラインス勧告を阻止し、沖縄復帰を実現した。これらの経験がオール沖縄に引き継がれ、いまでも息づいている」と報告しました。

活動は楽しく真剣に道東勤医労の「矢白別での実践と学び」では、矢白別の軍事訓練の抗議行動や監視行動について報告。演習場内で酪農を続けていた川瀬さんの「せっかく開拓した農場、手放したくない」と、自分の仕事の暮らしを重ねて連帯して取り組んでいること、「平和活動は楽しく真剣に」をモットーに、温泉をつくり、監視用に風船を飛ばすなど「まずはやってみよう」を大事にしている、と報告しました。分岐討論では「楽しく」を実践したい。観光地と戦跡めぐりをWeb中継で全国つなごう。」「地元の戦跡を訪ねたが、地元を見返すいい機会だった。企画をやる際は全面的に協力したい」との決意が語られました。

「言いたい劇場」 小菅りや子



医労連の「仲間ふやし」を広げよう

医労連の1000ある単組・支部で運動に、組織拡大に奮闘する「ふやす人」をご紹介します。
今回は、神奈川県医労連の池田奈々さんです。



東横恵愛病院労組
池田奈々執行委員長

私たちが組合は不当な労働を許さない「たたかう活動」しか行って来なかったの、助け合い共済を前面に打ち出して拡大に繋がった事は初めてで、とても有意義な経験となりました。今回、「共済推進」と言う、普段と違う視点で加入に繋がる実践を学び、仲間増やしの取り組みには幅があるのだと気付かされました。今後も色々な視点を持って、仲間増やしに向けて力を入れていきたいと思っています。

組合結成をした当時から思うように仲間が増えず、逆にコロナ禍で活動の幅も減り、減少傾向でどうしたら仲間が増えるのかを毎日模索していました。そのような中、県医労連から「共済説明会を単組で実施しよう」との話を受け、やってみようとして7月に初めて共済説明会を開催しました。



●コロナの影響で欠員が生じた病棟に他病棟の職員が応援に配置され現状を乗りきっています。私たちのスタッフの安定が、安全・安心を提供できると日々働けることに感謝しています。
(京都・帆刈優子)

●コロナ規制が徐々に緩んできたとは言え、病院内では変わらずの感染予防対策が徹底されています。身体も心も疲れ果てる日々が続いているなかでの大寒波&大雪…。せめて賃上げ、ボーナスUPでもあれば幸せになれると思う、今年の春闘もがんばろうーと思ってます。
(青森・中西奈美)

【パズル解答】1795号の答えは「エホウマイリ」でした。正解者の中から抽選でクオカードを贈呈します。
【応募方法】①組合(病院)名、②職種、③氏名、④郵便番号、⑤住所を記入し、解答を3/16(木)までにご応募ください。「読者のページ」もご寄稿下さい。
【応募先】〒110-0013 台東区入谷1-9-5 「日本医労連教育宣伝局」
FAX: 03-3875-6270
E-mail: n-ask@irouren.or.jp

■ヨコのカギ

- 1 春告げ鳥ともいいます
- 4 手紙の文末に使う言葉
- 7 肌の色は黒い……クマ
- 8 この日は節分の翌日
- 10 オードリー・ヘプバーンといえば、この街
- 12 大けがを乗り越え幕内で活躍中の人気力士
- 13 アカペラは……なし
- 15 時には木から落ちる!?
- 16 冬は……が待ち遠しい
- 17 水深200mより深い
- 19 ……院、……状
- 20 フリー、リバティ
- 22 鬼は外、……
- 25 独活って読めますか?
- 26 松本清張の短編小説シリーズ。「……画集
- 27 無駄遣いせず……する

ザクロスワード

出題▶モロゾミ勝

1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30

解答: A B C D E F

【問題】二重ワクの文字を、A～Fの順に並べてできる言葉は、なに? ……タテのカギ

1 ……影、……姿
2 世界的規模という意味
3 時代劇では巾着切りと言いますね
4 ……に霜を置く
5 ……を入れる
6 南米を代表する鳥
7 貨物を運ぶこと
8 国際的オートバイレースで有名な……島
9 ……裁判に訴えること
10 猿、豚、河童が大活躍
11 返信の手紙に書くあいさつです
12 炊事や洗濯など
13 大相撲の優勝カップ
14 讃岐や稲庭が有名
15 碁で先手の人が持つ石
16 雪道で車列は……として進みませぬ

5類になっても医労連共済

昨年9月26日の新型コロナ「全数届出」の見直し以降、医労連共済では「発生病届出の対象を事故入院扱い」「発生病届出の対象外」を休業扱い(受診が前提)として対応しています。多くの民間保険では、65才以上など「発生病届出の対象」のみ保険金支払いの対象となりました。

新名称「コロナ2019」
厚生労働省は今年5月8日から新型コロナウィルスの感染症法上の分類を2類相当から、季節性インフルエンザと同じ5類に位置づけを変更します。厚

医労連共済だよ!

労省は名称も新型コロナ「コロナウイルス感染症2019」で調整しています。これにより新型コロナに罹患した場合の取り扱いが再度変更となります。

休業給付は大きな魅力
医労連共済では、民間保険では対象外となる休業が、連続5日以上の上の休業で1日目から対象となります。新型コロナが5類になってますます無くなるわけではないので、医労連共済のアピールポイントです。新制度でも毎月拡大でも休業給付の魅力伝える事例として活用して下さい。

医療の眼

介護保険制度改善へ

昨年、次期介護保険制度改定に向けて、厚労省介護保険部会において改定議論がすすめられた。しかし、改定内容は「負担増と給付削減」の改悪内容となっており、制度見直しの撤回を求めて運動が大きく広がった。そのことから、当初予定していた改定スケジュールが見送られているのが現在だ。

介護報酬の大幅増は必須

2023年度から次期介護報酬改定の議論が始まる。介護報酬は、介護現場で働く職員の賃金・労働条件に直結する。前回(2021年度)改定では、0.7%増のプラス改定であった(新型コロナウイルス感染症に対するための特例的な評価0.05%を含む)。このことから、日本医労連の20春闘と21春闘の回答を振り返った

介護報酬改定に、現場の声を届けよう

制度改定は、基本は法改正が必要であるが、政令で定められる内容が、すでに法律で決められており、①と②については、結論を得た後に、パブリックコメントを募集し改正に至ることが見込まれる。③については、介護保険部会の意見を踏まえ、「介護報酬の設定等も含めた検討を行う」としており、部会の意見が「室料を徴収すること」が妥当」と判断して、まとった場合、介護給付費分科会で、介護報酬から室料相当を減額し、減額部分が利用者負担になることが検討される可能性がある。そのため、制度改悪の議論は無くなった訳ではなく、引き続き、制度を改悪させない国民の意思表示で包囲しなくてはならない。更に国民の世論を広げて法案自体を改悪から改善に舵を切らせる必要がある。

介護報酬の大幅増は必須
2023年度から次期介護報酬改定の議論が始まる。介護報酬は、介護現場で働く職員の賃金・労働条件に直結する。前回(2021年度)改定では、0.7%増のプラス改定であった(新型コロナウイルス感染症に対するための特例的な評価0.05%を含む)。このことから、日本医労連の20春闘と21春闘の回答を振り返った

この背景には、介護現場の組合員が、日頃のケア実践から、介護改善を訴える声がある。そして、その声の広がりが世論に伝わり、確実に改善を実現し、改悪を阻んでいる。

この事実を確信を持って、介護報酬改定議論に、現場の意見を反映させ、臨時改定も見据えて報酬の大幅増を実現しよう。

寺田 雄